

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第3回(通算78回)

## 教育課程特例校としてのデータサイエンス教育実践

### 1. 内容

- AI時代においては新たな科学に関する知識の増大と複雑な社会課題の増大に適応できる人材を育成するカリキュラム進化が必要である。
- 知識をどうやってスキルで生かしていくかに加えて、新しい価値を生み出すに当たってどのような態度で知識やスキルを使っていくかを学ぶ時期に来ている。
- 横断的なカリキュラムを編成するのがこれからの時代では大切である。
- 勤務校は文部科学省認定の教育課程特例校であり、データサイエンスコースでは、次のような教育課程を編成している(一部例)。
  - 「データサイエンス探究(数学Ⅰ+情報Ⅰ)」
  - 「グローバル探究(歴史総合+総合的な探究の時間)」
  - 「グローバルシチズンシップ探究(英語コミュニケーションⅠ+総合的な探究の時間)」
  - 「SDGs(家庭基礎+総合的な探究の時間)」
  - 「STEAM(美術Ⅰ+総合的な探究の時間)」
- 高等学校におけるデータサイエンス教育では、数値を扱う技術を習得するだけでなく、課題解決のプロセスを通して、科学的根拠に基づいた合理的な意思決定・課題解決の方法を学ぶ。「PPDACサイクル(Problem→Plan→Data→Analysis→Conclusion)」のプロセス。

### 2. 所感

2024年度より新たに設置した「データサイエンスコース」について、その理念と具体的なお取り組みについてご紹介いただきました。

上述のようにカリキュラムの概要のご紹介がありましたが、探究を核にさまざまな教科でデータサイエンスの考え方・手法を活用していくというカリキュラムのもつ意思が伝わってきます。その意思が先生、生徒に浸透していったら、科学的根拠を大切に、教科を超えた一貫した学び方で生徒たちが鍛えられ、成長していく姿が見えるようでした。

また、産学連携の取り組みとして、NFT、ブロックチェーン、クラウドファンディング、メタバース、VRなど、今の社会の最先端を取り入れて生徒自身が活用・実践している状況もご紹介がありました。大人もなかなか経験・活用していないようなことを実践的に使うことができ、生徒たちがとてもうらやましく思います。私立学校だから、あるいは教育課程特例校だからできるという面もあるでしょうが、他の高等学校でもこういったチャレンジが広がることを願います。

大学においては、2021(令和3)年度から、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の開始に伴い、モデルカリキュラムが公開されています。データサイエンスコースではそこに書かれていることよりもある意味高度なこと、社会の現実に近いことをやっているように思います。まだ開設したばかりのコースで試行錯誤も多いでしょうから先生方は大変だとは思いますが、生徒たちにとってすばらしい学びの環境ができていると感じました。

ドゥラゴ英理花先生、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。